

万博国際交流プログラム 交流計画の進捗状況

<内閣官房事業対象地域の一部※>

※ 内閣官房事業の対象地域を相手国とする交流計画のうち、令和6年度は事業費の申請を行わなかったもの。

令和7年 3月
内閣官房 国際博覧会推進本部事務局

本資料は、万博国際交流プログラムの登録自治体からの報告を基に、内閣官房国際博覧会推進本部事務局が取りまとめたもの。

交流計画の進捗状況

・北海道東神楽町(ケニア).....	3
・千葉県横芝光町(ベリーズ).....	6
・大阪府堺市(ヨルダン).....	9
・大阪府八尾市(リベリア).....	11
・大阪府泉佐野市(ウガンダ).....	14
・福岡県(フィジー).....	17

東神楽町交流計画の進捗状況

自治体名

北海道東神楽町

相手国・地域

ケニア

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

国際化が急速に進む中、本町においても外国籍住民の増加が想定され、国際化に対応したまちづくりが重要となります。このため、人材育成の一層の推進をはじめ、多様な交流活動の促進、外国人が住みやすく訪れやすいまちづくりなど求められます。また、本町では、自分の良さや可能性を認識し、他者と協働しながら様々な困難を乗り越え自らの人生を切り拓くとともに、持続可能な社会の担い手となるため「生きる力」を高める学校教育の推進に努めています。国際交流を通じて、わがまちを見つめ直し、特色や良さにあらためて気づくことで、より良い社会とのつながりの実現を図れるよう支援するための取り組みが求められています。

イ 目標

交流計画を実施することにより、自分たちのまちに対する理解をさらに深め、愛郷心を醸成し、また、異なる文化的背景を持つ人々との社会的なつながり方について理解を深めることを目標とします。

(2)ー1 事業内容

【事業名】東神楽町招聘事業

- ①令和7年3月にケニア大使館にて首長と大使の顔合わせ及び意見交換を実施済。以降実務レベルで意見交換継続中。6月～10月までの事業実施を目途として調整中
- ②東神楽町、ケニア大使館
- ③場所は東神楽町、その他未定
- ④未実施
- ⑤イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【事業名】ナショナルデー事業

- ①令和7年3月にケニア大使館にて首長と大使の顔合わせ及び意見交換を実施済。6月24日に実施予定とし、内容を調整中。
- ②東神楽町、ケニア大使館、万博ケニア館館長他
- ③令和7年6月24日、万博会場内ナショナルデーホール他、東神楽町長、町議会議員、ケニア農業担当大臣、ケニア花卉産業関係者
- ④未実施
- ⑤ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー3 事業内容

【事業名】万博会場内交流事業

- ①令和7年3月にケニア大使館と顔合わせ及び意見交換を実施済。以降実務レベルで意見交換継続中。旅行計画仕様書作成中。8月4日の週における事業実施を
目途として調整中
- ②東神楽町、ケニア大使館、万博ケニア館館長
- ③令和7年8月4日の週、万博会場内コモンズ-A共同館、大屋根リング他、東神楽町内小学生20名、町職員、藤本壮介氏、パビリオン関係者、北海道新聞へ情報提
供予定
- ④未実施
- ⑤ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

本町の取組等について、相手国大使館から概ね合意が得られている状況である

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博を通じて得られた相手国とのつながりを契機とし、相手国関係者等と情報共有や相互支援の可能性を探ることを通じて、人及び文化的価値観の相互理解を高
め、異文化理解と共感力の向上につなげることを目指す

5 特に良かった点、苦勞した点

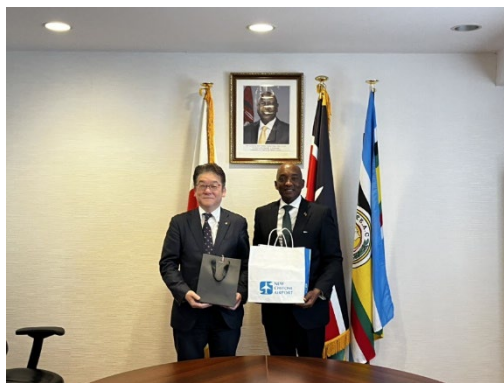
- 良かった点 万博を通じた交流の意義について、本町とケニア大使館の理解が一致していることが確認でき、具体的な交流事業について相互にアイデアを出しながら協議していく道筋を得られたこと
- 苦勞した点 町長とケニア大使の日程調整その他の下準備

6 今後の展開

ナショナルデー事業：具体的な実施日程を協議中
東神楽町招聘事業：具体的な実施日程を協議中
万博会場内交流事業：旅行仕様書作成中、具体的な実施日程を協議中

7 今後の展開における課題

- ・招聘事業においては、本町で開催されるイベント等に万博関係者等を招聘する計画だが、日本滞在の期間が限られている方もおり、また本町としてご案内できる宿泊施設等も時期によっては大変混み合っているといった状況があり、日程調整が難しい
- ・経済的交流についても積極的な相手国の思いに対し、小規模な自治体である本町がどのように応えることができるか、ということは課題である



東神楽町長・駐日ケニア大使

横芝光町交流計画の進捗状況

自治体名

千葉県横芝光町

相手国・地域

ベリーズ

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

ホストタウン事業を契機に更なる交流を深めたいと計画していたが、新型コロナウイルスの感染症拡大により各種事業が中止となってしまった。現地との時差が15時間あり、当町と現地小学生とでのライブによるオンライン交流が難しいほか、ベリーズへの移動距離が遠いことから、子どもたちの現地派遣も難しい状況にあり、交流がなかなか広がらないのが課題となっている。ベリーズにおいても当町においても、両国間の交流事業について知る人が少ない中、交流を広げることにより、ホストタウンから続くベリーズとの交流を広く町民に理解していただくとともに、町民が大阪・関西万博を主体的に捉えられるよう取り組みたい。

イ 目標

ベリーズとの交流については、在ベリーズ日本大使館のほか、国際協力機構JICA及び元青年海外協力隊などをの協力を得ながら、万博終了後も継続的な交流を図り友好関係を築いていきたい。また、今後更に進展するグローバル化に対応する国際的な視野を持った人材の育成を推進していきたい。

(2)ー1 事業内容

【事業名】 ベリーズ絵はがきプロジェクト

- ①スケジュール(令和6年4月:実施計画策定/令和6年6月～R6年10月:町小学生による絵はがき作成/R7年1月～2月:ベリーズ小学生による返信絵はがき作成)
- ②体制(町、町立小学校、ベリーズ国内小学校、在ベリーズ日本大使館、国際協力機構JICA及び元青年海外協力隊)
- ③内容(期間:令和6年6月～令和7年2月/場所:各小学校/取組内容:町内小学生とベリーズ小学生との間で、国際協力機構JICAを通じて絵はがきの交流を実施/参加者:町内児童176人)
- ④効果(東京2020大会でホストタウン相手国であったベリーズとの交流を継続するとともに、参加小学生が絵はがきを通して、異文化を理解し、ベリーズに興味をもってもらい、日本との生活の違いを感じながら、国際的な視野を持った人材を育成した。)
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(ア～イ以外)

(2)ー2 事業内容

【事業名】 ベリーズ異文化交流イベント「ミュージックde届けるカルチャー“みゅ～かる”」

- ①スケジュール(令和6年4月:実施計画策定/令和6年10月:内容最終調整/令和6年12月8日:イベント実施)
- ②体制(町、光ウィンドオーケストラ、国際協力機構JICA及び元国際協力機構JICA職員)
- ③内容(日時:令和6年12月8日午後1時30分～/場所:町民会館/取組内容:ベリーズの音楽を通じて異文化を理解し、グローバルな視点でカルチャーを探る/参加者:71人)
- ④効果(ベリーズ国歌についての要旨説明を受けた上で国歌演奏を聴いたことで、参加者がベリーズ国歌の意味や歴史についてより深く考える機会となった。)
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(イ)

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

国際的な視野を持つ人材の育成をはじめ、互いの文化や考え方の違いを尊重し合えたことで、多文化共生の地域づくりの推進につながった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

東京2020大会でホストタウン相手国であったベリーズとの交流を継続するとともに、万博を契機として新たな町の魅力を訪日外国人に伝え、ベリーズに留まらず、他国との交流へとつなげていく。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

小学生たちは絵はがきに書きたい内容を事前に確認し、先生のアドバイスやタブレットを頼りに、相手国の言語を調べながら手紙を書くなど、異文化に興味を持ち、積極的に取り組めた。

●苦勞した点

6 今後の展開

子どもたち同士の交流を続けていくほか、音楽を通じた異文化交流も継続していきたい。

7 今後の展開における課題

現地との時差が15時間あり、当町と現地小学生とでのライブによるオンライン交流が難しいほか、ベリーズへの移動距離が遠いことから、子どもたちの現地派遣も難しい状況にあり、交流イベント等の計画に苦慮している。



ベリーズの小学生による絵はがき作成



ベリーズの小学生による絵はがき作成



異文化交流イベント(演奏会)

堺市交流計画の進捗状況

自治体名

大阪府堺市

相手国・地域

ヨルダン

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市では、現在の人口減少、高齢化社会において、国際化を推進し、多様な文化的背景を持った人々を受け入れ、共生していくことが重要と考えており、大阪・関西万博を契機とし、ヨルダン・ハシェミット王国との結びつきを強化し、今後の交流深化につなげる。

イ 目標

本プログラムでの交流を通じて、万博を契機とした本市の取組の方向性である「子どもたちの国際感覚の醸成、未来に向けた行動」、「誘客による市内消費の活性化」の実現をめざす。

2 事業内容

【ヨルダンとのオンライン会議】

①スケジュール

ヨルダンパビリオン運営関係者と調整し、オンライン会議を実施

②体制

ヨルダンパビリオン運営関係者

③内容

(日時)令和7年2月27日(木) (場所)オンライン (取組内容)万博会期中の連携取組に関する調整
(参加者)ヨルダンパビリオン運営関係者、堺市内事業者(堺五月鯉幟・高儀)、堺市

④効果

万博会期中の連携取組内容の詳細について調整することができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

オンライン会議を行うことで、万博会期中の取組実施に向けて関係性を構築することができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後のレガシー創造も考慮した上で、会期中の取組案について検討を進める。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

これまではメールでのやり取りが多かったが、オンライン会議で意見交換することで、意思の疎通をスムーズに行うことができ、円滑に関係性を構築できた点。

●苦勞した点

スケジュール等の連絡調整に時間を要した点。

6 今後の展開

万博会期中の各取組について、関係各所と実施に向けて準備を進める。

7 今後の展開における課題

各取組をスケジュール通り実施できるよう、関係者と連絡を密に取り調整を進める。

八尾市交流計画の進捗状況

自治体名

大阪府八尾市

相手国・地域

リベリア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

令和6年度の八尾市市政運営方針では、「OPEN FACTORY CITY YAO」を産業スローガンとして、世界に向けて、八尾のモノづくり現場を開き、ブランド力を引き上げていくとともに、「ベンチャーエコシステム創出事業」において、こどもの創造性育成プロジェクトを実施している。そのことで、八尾の産業を支える中小企業のクリエイティブな人材の輩出や、社会環境の変化に柔軟に対応できる企業力を備える支援事業とし、万博を通じて、活動を世界に向けて広げることを目的とする。

イ 目標

国際的な視野を広げ産業、音楽、文化を学ぶことで、クリエイティブの幅を広げる効果及び、市の総合計画の中で指標としている関係人口の対年度比率の増加をめざす。更に、当該事業を通じて、メディア等への取り上げられる機会が増えることで、「ものづくりのまち八尾」のブランド力が確立されることをめざす。

2 事業内容

【事業名】・・・八尾市×リベリア共和国国際交流キックオフミーティング「相互地域の万博を通じた展望」

①スケジュール／手法(日時:2025年2月26日(水)19:00～ /オンライン)

②体制(the Commissioner General of Liberia Expo2025 Ambassador、リベリア共和国駐日大使館、株式会社steAm、錦城護謨株式会社、八尾市)

③内容(キックオフミーティング(相互理解を深める交流会)、参加者:体制機関計10名)

八尾市産業政策課職員、八尾市内の中小企業の代表者(錦城護謨株式会社代表取締役太田泰造)、子どもの創造性教育・文化(音楽)交流担当(株式会社steAm)、

リベリア共和国からは、リベリア共和国の万博大使で音楽家のQueen Juli Endeeとアシスタント、リベリア共和国駐日大使のZukolee G. Kongoなど総計10名によるオンライン交流会を開催。

大阪・関西万博を通じて達成したい目的をそれぞれの立場から説明し、意見交換を開催した。

今後、地域特性などの相互理解を深める意見交換会の開催を続けることで合意し、オンラインでの継続的な交流会を開催していく。

④効果

- ・庁内横断的な交流体制の構築
- ・国際的な万博事業の計画策定
- ・ナショナルデーにおける地域交流の計画策定

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

本市としては、未来を担う子どもたちのクリエイティビティを引き上げるとともに、市内中小企業の国際交流の機会をつくるという目的とリベリア共和国の国家として日本の都市との交流をしたいという相互の達成したい目的の共有が出来たこと。また、その担い手となる中小企業家や教育分野の専門家も加わり、より実践的な共創活動のイメージを持つことが出来た。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会機関での交流会の具体的なイメージを持つことができ、万博国際経済フォーラムの開催企画へとつながり、持続性を持つために、実際のプレイヤーとなる企業家間の交流機会がくれた。

5 特に良かった点、苦勞した点

- 良かった点: 交流メンバーが多岐の分野にまたがったため、今後の交流機会について多面的な構想ができた。
- 苦勞した点: 国際交流を専門とする部署ではないため、交流手法に苦慮した。

6 今後の展開

実際の万博での交流及び地元での地域交流のイベントを実りあるものとなるように、継続的なオンライン交流を重ねていく。

7 今後の展開における課題

リベリア共和国からは、ナショナルデーに、大統領が訪日することを予定しており、当事業で予定している万博国際経済フォーラムへの参加を希望されているが、警備面等において、基礎自治体での対応が難しいと考えている。



リベリア万博総代表等と交流した記念撮影



八尾市イノベーション拠点での交流会(事例)



地場産品の見学会(事例)

泉佐野市交流計画の進捗状況

自治体名

大阪府泉佐野市

相手国・地域

ウガンダ

1 背景と目標等

ア 背景と目的

2017年にウガンダ共和国グル市と友好都市提携都市を締結し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会時におけるホストタウン事業を実施してきました。分断化が進む世界に、空港所在都市として外国人人口が増加する地域において、国際交流を促進し相互理解を深め、多様な価値観を認める地域づくりを目的とします。

イ 目標

ウガンダ共和国の方々と地域住人の理解・交流(文化・産業等あらゆる分野で)の促進。

2-1 事業内容

【事業名】

- ①スケジュール 市民向けの万博講演(2024年7月10日) / ウガンダ共和国に関する自然や文化等の展示(2025年3月14日から4月13日)
- ②体制 市民向けの万博講演 大阪大学2025年日本国際博覧会推進室より講師を派遣 / 文化等の展示 一部資料についてウガンダ大使館の意見やJICAの協力を得た。
- ③内容 下記(2)-2のとおり
- ④効果 市民に向けて万博の機運醸成・理解促進を行ったうえで、中央図書館でパネル展を万博開直前に実施し、万博開催時の国際交流促進の機運が高まった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
ウガンダ共和国に関する自然や文化等の展示 → イ 万博参加国・地域の関係者
市民向けの万博講演 → ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-2 事業内容

【市民向けの万博講演】

「大阪・関西万博と万博に向けた大阪大学の取組」として、大阪大学の特任教授より、ご講演頂きました。
国際博覧会とは？から、万博の変遷、1970年の万博の状況まで、お話くださり、万博をきっかけに誕生した新技術により生活が便利になったなど、万博の効果についてもご説明頂きました。
講演を実施した2024年7月時点は、着工の遅れなどの報道が目立っているなかで、万博に対する期待を高めて頂いたと理解しています。
また、大阪を代表する学術機関である大阪大学の万博への取組について、今回の万博ではハードからソフトに変わっていくとし、石黒浩先生のパピリオンや大阪で研究が進む培養肉についても触れて頂き、地域住民に対して地域に対する誇りの醸成がなされたと思います。
最後には、参加しよう行動しようというお話で締めくくられました。ストーリー性があり、聴講者に対しては、参加機運の醸成等に効果があったと思われます。

2-3 事業内容

【ウガンダ共和国に関する自然や文化等の展示】

地域住民にとって、アフリカは物理的にも心理的にも近くないと考え、面積・人口・言語といった基本的な事項のほか、食文化・世界遺産といった日本人が興味を抱きやすいような分野を紹介するパネル展示を約1か月の間、中央図書館の一角で実施いたしました。

展示にあたっては、図書館にある図書のほか、ウガンダ共和国の特産品であるコーヒーの実物展示やJICAのテキストも配架いたしました。

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

令和6年度は、万博開催前であり、開催に向けた機運醸成等が求められていたところ、講演では、地域住民への参加機運の醸成ができ、展示では、大阪・関西万博にも参加するウガンダ共和国について地域住民への理解促進に対して一定の効果があったと認識しています。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

レガシー創造の寄与については、今後の取組によりますが、万博開催期間中に、地域住民とウガンダ共和国の人々の相互理解が深まるよう努めたいと考えています。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

万博関係者、ウガンダ政府関係者、JICA等のネットワークが出来、今後、地域に展開するにあたってプラスとなりました。

●苦勞した点

特にありません。

6 今後の展開

万博に関係するウガンダ共和国の人々の意見を踏まえながら、進めてまいります。

7 今後の展開における課題

ウガンダ共和国に関する資料等の収集に課題を感じました。



福岡県交流計画の進捗状況

自治体名

福岡県

相手国・地域

フィジー共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

・福岡県スポーツ局では、「県と交流先双方の競技力の向上」「多様性の理解などに繋がる人材育成」「交流人口の拡大による地域の活性化」に取り組んでいる。
・これまでに、MOUに基づき、アメリカ合衆国ハワイ州との間で、バスケットボールを通じた青少年の相互派遣、オーストラリアのニューサウスウェールズ州との間で、野球、水泳を通じた青少年の相互派遣事業を実施している。
・福岡県では「世界から選ばれる福岡県」を目指して、今後は特にアジア・オセアニア、太平洋島嶼国地域において、フィジー共和国大使館関係者やオセアニアオリンピック委員会(ONOC)関係者とのコネクションも活かし、スポーツを通じた交流に注力していく方針。
・大阪関西万博を契機とした交流は、これらの地域のスポーツ関係者に、福岡のみならず、日本文化への理解と関心を高める絶好の機会であることから、本事業を実施するもの。

イ 目標

・福岡県や大阪万博会場における視察・交流を通じ、フィジー共和国のスポーツ行政担当者、スポーツ競技団体関係者との関係構築を図るとともに、本県のスポーツ環境や日本の文化への理解と関心を高める。
・本事業において、フィジー共和国とのスポーツを通じた交流推進の礎となるMOUの骨子や今後の具体的な交流について協議を行い、令和7年度内でのMOU締結につなげる。
・本事業実施後においては、MOUをもとに、両地域の青少年や指導者を対象としたスポーツ交流に取り組み、スポーツの競技力向上、多様性の理解に繋がる人材育成を図っていく。

(2)ー1 事業内容

【事業名】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年3月26日(水)11時～12時

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

福岡県スポーツ企画課、在京フィジー共和国大使館関係者、フィジー共和国青年スポーツ省

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

・万博国際交流プログラムの計画内容、今年度の取組計画、参加者等について福岡県から説明
・上記にかかるフィジー共和国関係者からの意見聴取

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

・フィジー共和国関係者から、福岡県が想定する計画等について概ね了解が得られた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

令和7年2月に万博国際交流プログラムの登録を受けたばかりではあるが、万博開催前に、フィジー共和国関係者と改めて、MOU締結に向けて、本年度取り組みを進めていくことについて、共通認識を持つことができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

本プログラムに基づく事業を今年度遂行し、フィジー共和国側関係者に、福岡県のスポーツの環境や、福岡県、日本の文化への理解と関心を高めるとともに、両地域のスポーツ行政関係者とスポーツ競技団体関係者との協議を通じて、MOUを締結し、大阪・関西万博終了後も、両地域のスポーツを通じた継続的な交流につなげていく。

5 特に良かった点、苦労した点

- 良かった点
これまではフィジー青年スポーツ省の関係者とはメールのやり取りのみであったが、WEBミーティングを通じて、交流対象者同士顔を合わせることができた。
- 苦労した点
特になし

6 今後の展開

- ・福岡および大阪関西万博会場に招聘する、フィジー側のスポーツ行政関係者、競技団体関係者のメンバー選定を実施する。
- ・令和7年度内閣官房事業の採択が得られれば、事業の一部委託先等の契約手続きを進めていく。

7 今後の展開における課題

- ・引き続きフィジー側の関係者とWEBミーティングやメールのやり取りを通じて、各種調整を行っていくが、当課スタッフには英語を話せる者がいないため、スピーディーに意思疎通を図ることが難しい状況。
- ・WEBミーティングの場には、通訳も担っていただける、在京フィジー共和国大使館関係者を巻き込みながら、しっかりコミュニケーションを図って行く必要がある。